

日ごろのガス機器修理技術を競う サービスショップ作業員の技能コンクールを開催



給湯器の「分解技能」(左)とふろ給湯器の「故障診断」競技に臨むサービスショップ作業員

京葉ガスは8月29日、日ごろお客さま宅のガス機器修理に従事するサービスショップの作業員を対象に、修理技術を競うコンクールを開催しました。

京葉ガスでは今回、ガス機器修理にかかわる技能品質の維持・向上などを目的に、日ごろ修理作業に従事する京葉ガスサービスショップの作業員を対象とした技能コンクールを初めて開催しました。当社の技術研修センター（市川市）で行われ、「ガス機器サービス士」の有資格者12人が参加しました。

最初にガスの燃焼や機器の安全装置などに関する筆記試験を行った後、1時間40分にわたり実機を用いての実技試験を行いました。

給湯器の「分解技能」競技では、機器の異常過熱により温度ヒューズが切れた状況を想定。ヒューズを交換するにはバーナーならびに熱交換器、付随する配線をすべて取り外す必要があり、修理には分解と組み立ての高度な技術が必要とされます。制限時間（55分）内での作業終了はもとより、作業手順や組み立て後の各部品の位置や固定状況のほか、ガスもれや排気ガスのCO（一酸化炭素）検査などを含め約30項目を審査の対象としました。

ふろ給湯器とファンヒーターを用いた「故障診断」競技は、それぞれ「給湯がぬるい・ふろの追い焚きができない」「温風が出ない」という症状を再現し、45分の制限時間で行いました。参加者はテスターで回路ごとに電圧を測るなどし診断を進め、故障部品を特定しました。

